

## 新規採用にあたって

越野 陽介

この度、4月1日付けの人事発令によりまして、さけます・内水面水産試験場に新規採用となりました。どうぞ宜しくお願いいたします。

私は、3月までは北海道大学水産学部に博士研究員として在籍していました。研究テーマとしては、大学4年生(平成19年)の研究室配属時から博士課程取得(平成26年)まで一貫して、遡上してきたサケ由来の栄養がどのような生物にどれくらい取り込まれているのか?という研究を行ってきました。

私は大学4年生から修士2年生にかけて、このサケによる物質輸送を知床半島というとてもすばらしいフィールドで目にすることができました。知床半島が世界自然遺産に登録された理由の一つに、海域と陸域の相互作用が顕著である、という文言がありますが、サケによる物質輸送もこの一翼を担っていると考えられています。私がフィールドとしていたルシャ川というところは、知床半島のオホーツク海側に注ぐ河川であり、世界自然遺産地域のほぼ中央に位置しています。この川では多くのサケ科魚類が見られます。川の中はオショロコマで溢れ、手に餌を持って川に差し入れると群がってくるほどです。そして、秋には大量のカラフトマスの産卵遡上が見られ、多い年では足の踏み場もないほどでした。

このカラフトマスを目当てに多くの動物が姿を現すようになりますが、その中でも一際目立つのがヒグマです。多くのヒグマが生息するこの地域では、よくテレビで見かけるような迫力満点の捕食行動を日常的に観察することができるため、まるで日本国内とは思えない光景

でした。ヒグマが四六時中闊歩しているような場所だったので、サンプリング調査では常に気を配っており、とても神経がすり減りました。しかし、この二度と体験できないようなフィールド研究で学び培ったものは、私の研究に対する哲学の原点となっていると思います。

また、私は修士から博士に進学する前に一度就職しており、JFマリンバンクの根室支店に勤務しておりました。ここでは漁協や漁業者向けの融資の仕事が主でしたが、サケの不漁が漁協の経営悪化に直結するのを目の当たりにしました。そして、その影響が漁業者だけでなく加工業者や運送業者などにまで波及することを、業務を通して初めて理解することができました。恥ずかしい話ですが、これまでサケはただの興味の対象でしかなかったため、ここに来て初めてサケの漁業資源としての重要性を認識できた気がしています。わずか1年で退職してしまいましたが、マリンバンクでの仕事は実際に浜に出て漁業者の声を聞くことができた貴重な経験となりました。

現在、サケの漁業生産額は北海道全体のおよそ4分の1であり、北海道の水産業において重要な位置を占めています。しかし、サケを巡る環境は刻々と変化しており、温暖化など気候変動による影響を強く受けているという研究もあるようです。私は、これまで得てきた知識や経験を元に、安定したさけます漁業や増殖事業を行えるように少しでもお役に立てればと思っております。これからどうぞ宜しくお願いいたします。

(さけます資源部 こしの ようすけ)



カラフトマスをくわえたヒグマ